

1. 調査報告概要表

作成日 2007年12月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4770200063
法人名	医療法人 信愛会
事業所名	グループホーム 東山
所在地	〒904-1102 沖縄県うるま市石川東山2丁目24-10 (電話) 098-965-1202

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	〒903-8603 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1 (沖縄県総合福祉センター内)
訪問調査日	平成19年12月6日(木)

【情報提供票より】(19年10月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年4月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.8 人

(2) 建物概要

建物構造	コンクリート造り	
	3 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費200/日 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日あたり			900 円

(4) 利用者の概要(10月12日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	74 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中頭病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは閑静な市内の住宅地の中にあり、既存の建物を利用して建てられている。そのため、居室や廊下等のスペースが十分に確保されていないが、車椅子や歩行器を使用している利用者の移動には、職員の見守りが行き届いており、不自由さは感じられない。また、食堂とソファのある共有空間は明るく、ゆったりとした雰囲気を感じられる。そこで利用者職員と一緒に食事をしたり、洗濯物たたみをしたりして、ともに利用者に寄り添いながら会話を楽しんでいる姿は微笑ましく映る。当ホームでは家族の面会が多く、家族会を通して敬老会や大掃除等、家族との協力関係や信頼関係が築かれている。また、法人内研修への参加など、職員の育成にも積極的に取り組まれている。現在、管理者と計画作成者が兼務しているが、早期に専任の計画作成者を配置し、地域密着型サービスへの体制が十分取り組めるような配慮が求められる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果をいかして、地域へ積極的にホームの活動内容を広報している。また、運営推進会議を活用して多くの関係機関等との連携に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価がサービスの質の向上に向けて、職員の日々の対応に反映されている。また、これまでの対応を常にふり返り、新たな気持ちで臨むきっかけになっている(食後の歯磨き、トイレへの声掛け誘導、また、ホーム内の装飾に季節感を取り入れる気付きもまわっている)。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4)
	運営推進会議が定期に開催されるようになっている。前回の評価結果を積極的に公表し、運営推進会議の意見を現場に反映できるよう取り組んでいる。(運営推進会議の委員との協力体制ができています。)
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の家族の面会は多く、日常の報告はその都度行われている。毎月のホーム便りでも行事の様子等連絡している。また、家族会が発足し、利用者・家族同志の交流の機会が増えてきている。職員と家族のお互いが、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、月1回の行事に積極的に参加している。高校生の職場体験や看護学生のボランティア等を積極的に受け入れている。散歩の途中や買い物に行った先で地域住民の方から、介護予防や福祉用具について相談を受けることがある。今後は、ホームの特性を活かして、地域の方々に参加できる介護教室の開催を期待したい。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は「利用者がこれまで過ごしていた生活をホームにおいても続けてほしい」との強い思いをもち、地域密着型サービスの理念を職員にも理解させながら取り組んでいる。	<input type="radio"/>	ホームの理念をより近隣の方々に身近に感じてもらえるよう、地域への広報の機会を自治会の協力をえながら増やしてほしい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングで常に理念を確認しながら利用者の現在の生活を支え、また、利用者の意向を尊重しながら支援している。施設で介護経験のある新入職員には、ホームと施設との利用者への対応の違いを具体的に説明している。	<input type="radio"/>	職員一人一人が日々の支援の中での気付きを通して、次への一歩が踏み出せるよう、今後も理念の理解と周知を継続して伝えてほしい。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、月1回の行事に積極的に参加している。高校生の職場体験や看護学生のボランティア等を積極的に受け入れている。	<input type="radio"/>	ホームから外へ参加するだけでなく、近隣の方々が気軽にホームに訪ねて来られるような配慮が望まれる。また、介護予防や介護用具等についての相談会を実施するなどして、地域との交流に取り組まれることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価が介護サービスの質の向上に向けて、職員の日々の対応に反映されている。また、これまでの対応を常にふり返り、新たな気持ちで臨むきっかけになっている	<input type="radio"/>	今後も評価項目の一つ一つの理解と意識付けに努めてほしい。また、評価結果から課題を把握し、ミーティングの中で検討し、さらなる改善に向けた取り組みに期待したい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が定期に開催されるようになっている。前回の評価結果を積極的に公表し、運営推進会議の委員の意見を現場に反映できるように取り組んでいる。	<input type="radio"/>	現在、運営推進会議の委員との協力体制がとられ、今後消防訓練計画が予定されている。今後は地域の住民へ参加協力を呼びかけ、周辺住民との協働を築いてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在、運営推進会議委員の包括支援センターとの情報交換に留まっている。	○	今後は、市町村と積極的に情報交換を行い、ホームの機能を活かした介護予防、認知症等の教室の開催を働き掛け、市町村との信頼関係を築いてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会は多く、日常の報告はその都度行われている。金銭管理については、利用者自身が管理したり、あるいはホーム側で管理する場合もある。その場合は明確に金銭管理台帳に記録し、家族に定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が発足し、利用者・家族同志の交流の機会が増えてきている。また、職員と家族のお互いが話しやすい雰囲気作りを心掛けている。	○	今後は第三者委員やオンブズマンの導入若しくは、運営推進会議委員の民生委員等の協力をえながら、利用者・家族の声をサービス改善のきっかけとしていかれることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人施設との関係上、職員の異動が定期的に行われている。異動する際には、利用者・家族に対して早い時期から報告し動揺が起きないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、事前に職員間の勤務調整をする等して、法人施設の研修に職員を積極的に参加させている。管理者が看護師であり、緊急時対応等医学的な内容の研修を定期的にホーム内で実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員はグループホーム連絡会に参加し、交流・情報交換を行っている。また、連絡会の研究大会において、自らホームの事例発表を行うなどして、当ホームのサービスの質の向上へ向け取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族が事前に見学し、ホーム内の様子を把握した上でサービスの利用を決めている。利用者がホームに慣れる間は家族へ電話や面会を多くする等の本人への配慮がみられる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から料理を教わったり、野菜の植え付けから収穫に至るまで指導してもらっている。居室の表札作りや、折り鶴で壁飾り等を楽しんでいる。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時での会話を通して家族から情報収集し、利用者の対応への工夫につなげている。利用者との会話の中での表情や態度から利用者の希望や意向の把握に努め、信頼関係を築ききっかけを作っている。	○	利用者と家族の意向が異なる場合も予想されるので、利用者の思いにどう応えるか、家族にどう納得してもらうのか悩むところである。家族会でアンケートを実施するなどして、その結果を両者のよりよい関係づくりにいかしてほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のアセスメントシートから課題を把握し、介護計画が利用者と家族の意向を踏まえ作成されている。	○	利用者のアセスメントシートから、介護計画書作成に必要な情報が少ない印象を受ける。管理者と計画作成者の兼務では、日常の多忙さから本来の介護サービスの質を確保することは困難であり、専任の計画作成者の配置が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の家族が面会の際に、介護計画の見直しについて説明しているが、利用者の身体状況の変化が殆どなく見直しは少ない。	○	介護計画の内容を検討していくためには月1回の会議の開催が必要であるが、現状の管理者と計画作成者との兼務では、実務が困難であるため、早期の専任の計画作成者の配置が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームにおいて、現在病院受診のみ継続して支援を受けているが、今後外出支援を実施に結び付けていく予定である。	○	現在、在宅で生活している認知症高齢者やその家族の多くが、ショートステイやデイサービスを希望されているものとする。今後は法人代表者等とホームの地域へ果たす役割について一緒に検討してほしい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望する病院受診や2週間に1度の往診が継続されている。緊急の際は管理者が判断をし、協力医療機関の担当医と連絡をとりながら受診に結び付けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とは急変時の対応について相談している。終末期に向けた話し合いは、職員間では行われていない。	○	終末期に向けた方針を確立し、職員への研修も実施してほしい。家族会へのアンケート実施等により、終末期の要望等を家族が把握し、今後の終末期に向けた方針を家族と話し合い、一緒に作りあげてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事の際には介助はあまりなくティッシュを横に差し出す程度で、トイレへの対応も利用者への声掛け等配慮が見られる。また、利用者から学ぶ姿勢が会話からも充分感じられる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共有空間において、利用者がテレビを見たり、職員とのおしゃべりを楽しんだり、洗濯物の毛玉取りをしたり、それぞれ思い思いに過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から料理の指導を受けながら、利用者と一緒に調理している。食事を終わると、テーブルの上で食器を整理し、片付けを行っている。その後、利用者が食器を流し台まで運んでくれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間等は決めず、利用者の習慣、希望に合わせた入浴支援をしている。季節によって入浴の回数が若干減ることもあるので、散歩後の入浴等こまめに声掛けしている。入浴を拒否される利用者へは清拭を行うこともある。	○	利用者の入浴拒否の要因について家族等と話し合い、衛生面や精神面を考慮しながら入浴の方法を検討してほしい(例えば広すぎて寒い、シャワーの出が強いなど)。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	車椅子使用の利用者が得意とする掃除を支援するため、事前に安全にできる範囲を想定し無理なく作業できるよう配慮している。ホーム敷地内に、利用者が中心になって植え育てた季節の野菜を収穫し、献立の食材に使用している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回の自治会行事へは坂道を上るので、散歩には坂道を下るコースを好んでいる。散歩を兼ねて買い物を楽しんだり、近隣の祭りや法人での行事にも積極的に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の配置が少ない時間帯においては、利用者の安全を配慮し玄関を施錠している。外へ出て行こうとする利用者に対しては、利用者がホーム前の道路へ飛び出す危険性を排除し、一緒に玄関横で時間を過ごすなどして、利用者の気持ちを満たしている。	○	利用者の「外へ出たい」という思いを事前に察知するために、職員はどう対応するか、また、施錠以外に安全を確保できる工夫ができないか等、家族からの情報や、普段の研修から学んだ内容等を参考に検討してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署提出の消防計画書から災害時の対応や職員の配置が確認できる。また、運営推進会議の委員の協力体制も確立できている。	○	災害時対応の体制、地域の協力が現場において確かな連携に繋がり利用者の安全を守るためにも、災害時を想定した安全な避難誘導マニュアルの作成が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事のチェックや体重の変化が記録されている。便秘気味の利用者には運動や水分補給をしてその改善に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「ソファが一番楽しい」と笑いかけた利用者の方は、座っているだけでなく職員が取り込んだ洗濯物を一緒にたたんでいる。共用空間は広く、トイレや浴室は車椅子にも充分の広さが確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室では、ベッドを使用したり、床の上に直接マットを敷いたり、また、ベッドの場所を時々移動させて使用するなど、それぞれ利用者に合わせて工夫されている。家族の写真や小物類等が思い思いに飾られ、利用者のその人らしさの雰囲気が感じられる。		